

中央大学 福岡捷二

第13回評価委員会（H17.4.12）「有明海・八代海における河川の影響について（福岡委員）」講演に対する指摘事項への回答

1．域外導水の影響について（平水時・低水時での影響確認）

域外導水の影響について、実績流量には、洪水時のデータが入っており、過小評価されている可能性があるため、平水流量及び低水流量の流量が流れている時の影響もみるべきであるという指摘がありました。平水流量及び低水流量が年間を通じて流れたと仮定して算出した年間相当流出量と年間取水量の関係をとりまとめたグラフを作成しました。比較のため講演時に示した実績流量についても再度示しております。

平水流量時はもちろん、低水流量時でも、域外導水の影響は年ごとの流出量の変動幅に比べて十分に小さいことが分かります。

平水流量：一年を通じて185日はこれを下回らない流量

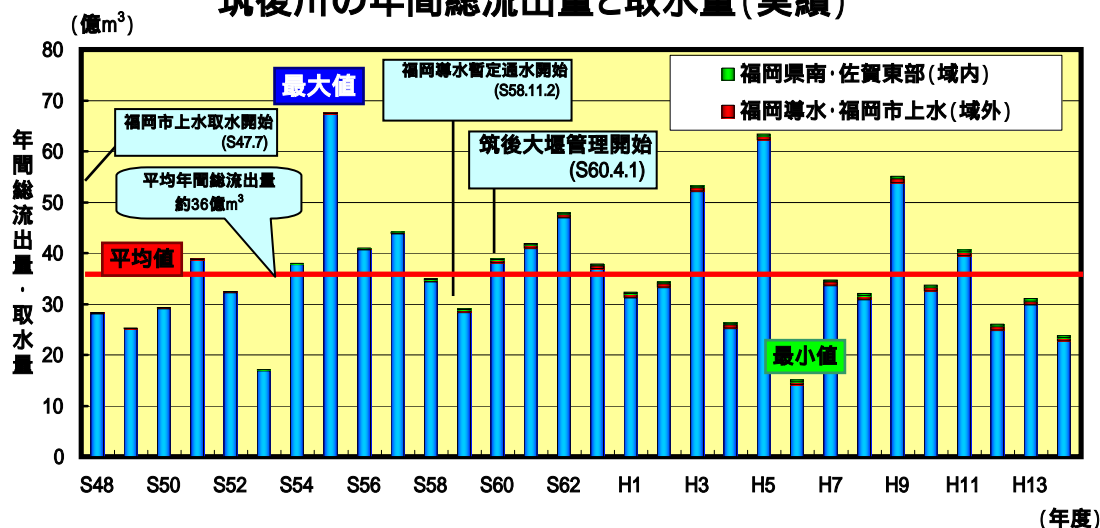
低水流量：一年を通じて275日はこれを下回らない流量

2．河床材料調査位置について

昭和31年のデータは採取位置が不明でしたが、昭和36年のデータは採取位置が左岸及び右岸であること、平成6年のデータは採取位置が左岸、右岸、及び河道中央であることが、国土交通省筑後川河川事務所の照査によって確認できました。

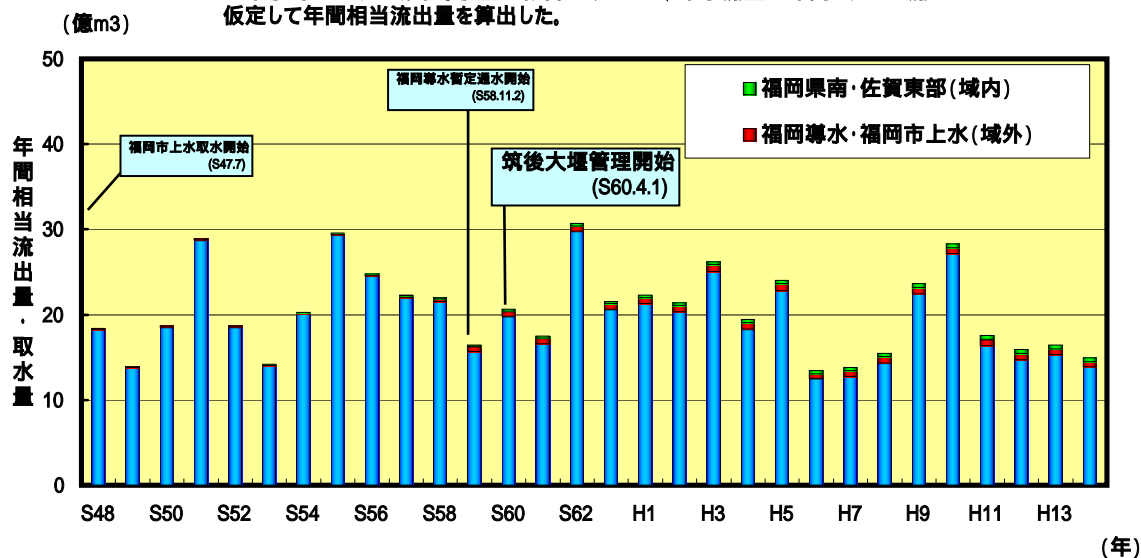
昭和36年と平成6年で、採取位置の考え方を左右岸平均であわせたものと、平成6年の河道中央のデータをグラフに示しました。これより、近年では、全体の傾向として、下流域で「シルト・粘土」が増加しています。特に河口部では、左右岸に「シルト・粘土」の堆積が進み、河床材料の細粒化が起こっています。

### 筑後川の年間総流出量と取水量(実績)



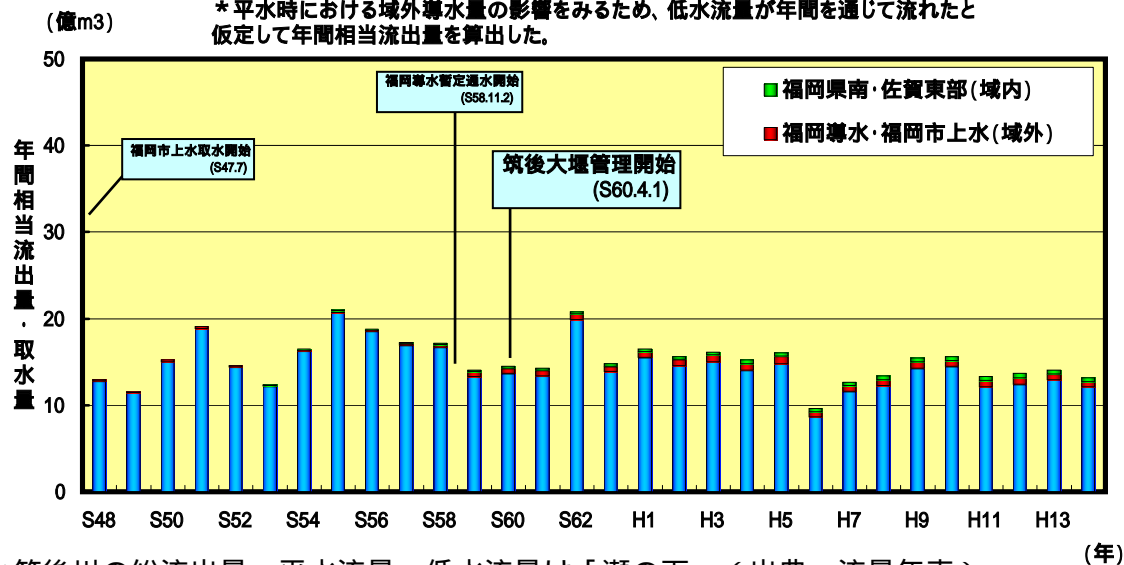
### 筑後川の平水流量時の域外導水の影響(想定)

\* 平水時における域外導水量の影響をみるため、平水流量が年間を通じて流れたと仮定して年間相当流出量を算出した。



### 筑後川の低水流量時の域外導水の影響(想定)

\* 平水時における域外導水量の影響をみるため、低水流量が年間を通じて流れたと仮定して年間相当流出量を算出した。



- \* 筑後川の総流出量、平水流量、低水流量は「瀬の下」(出典 流量年表)
- \* 福岡市上水取水は女男石頭首工からのもの
- \* 都市用水取水量は、取水量報告値
- \* 域外導水とは有明海に戻ってこない水、域内導水は最終的に有明海に戻ってくる水

